



いのちの水 生きている川

～みんなの手で、かながわの水を守り、育て、つなげよう～

このリーフレットでは、県内各地の小・中学校における川や池、水を題材にした学習の実践例を紹介しています。川や池には多くの生き物が生活し、それらは私たちの生活を豊かにするとともに、潤いを与えてくれています。学校や地域での自然の観察や生き物の飼育などを通して、生き物の誕生や成長、生命の大切さについて学んでいきましょう。

また、自然の仕組みの素晴らしさを知るとともに、私たちのいのちの源である、水について調べたり、限りある水資源を大切に守っていくことについて考えたりしていきましょう。

たまがわ 玉川たんけん

愛甲小学校は、厚木市の南西部に位置し、周辺は田んぼや梨園などに囲まれ、近くは玉川が流れる自然豊かな場所に位置しています。総合的な学習の時間を通して、「大好きな愛甲地区を守りたい」をテーマに、身近な玉川に親しみ、自然やそこに棲む生き物を大切に守り続けようとする学習を展開しています。

6月から10月にかけて「玉川たんけん」を実施し、生き物に詳しい講師の先生方から採集した生き物の名前や生息している場所、特徴などを説明していただきました。子どもたちは、陸上の植物について、春に咲いていたよく見かける紫色の花が、「ヒメオドリコソウ」や「ノアザミ」という名前であったことに新鮮な驚きを見せていました。また、玉川の生き物では、川エビなどが生息する川の縁側でタモを使って採集する方法や石の下の水生生物の見つけ方など、専門的な面から説明を受け、興味深く取り組むことができました。このような生き物の採集を通して、在来種が減っていることや外来種についても学んでいくことによって、生物多様性を守り続けていくためにどのような手立てが必要なのかを考えました。

子どもたちは、もっと知りたいことを図鑑やインターネットなどを使って、調べ学習を行い、学習したことを発表していききました。

あつぎしりつあいこうしょうがっこう
(厚木市立愛甲小学校)



講師による川の生き物の解説



川底の生き物の調査



玉川での生き物調査



講師による玉川の解説

きれいな金目川にしたい

金目小学校のすぐ目の前を金目川が流れています。子ども達にとっては、とても身近な遊び場であり学習の場でもあります。例年4年生の総合的な学習の時間で金目川の成り立ちやそこに生息するたくさんの生き物、川にかかる橋など様々な分野に分かれて学習し、より一層身近な存在となっています。

今年は、あるグループの「昔いたホテルを呼び戻せないかな」というつぶやきから「金目川をきれいにしよう！」とごみを拾う活動を始めました。河原に下りてみると、バーベキューができるという好立地もあり、食べ物のごみやたばこの吸い殻が多く集まりました。思っていた以上のごみを目の当たりにして、改めて地域の自然を大切にするとともに、ごみ拾い活動を広め、きれいな金目川にしていきたいと思いました。

ひらつかしりつかなめしょうがっこう (平塚市立金目小学校)



ゴミ袋へ集めていく児童



集められたゴミ (金属・タバコの吸い殻)



ぼくたち中津川探検隊

5年生の総合的な学習の時間は、地域の身近な自然である中津川を調べることにしました。

中津川に出かけると、カジカやアブラハヤ、カジカガエル、サワガニ、ゲンゴロウなど、きれいな水に棲むといわれているたくさんの生き物を確認することができました。

その学習のなかで気がついたのは、河原のゴミが自立つことです。最近多くのハイカーが来て、川遊びやバーベキューをし、その際のゴミやバーベキュー後の灰をそのままにして帰るようです。そこで、中津川の自然を守るために、ゴミ拾いと「ポイ捨て禁止」の看板作りを行いました。

次に興味を持ったのは、「上流はどのような様子だろう」ということでした。中津川の上流は寄沢と言い、その一帯の山は県の水源林になっています。

そこで、県の森林インストラクターさんの案内で、緑豊かな森林に足を踏み入れました。川が生まれる最初の湧水が少しずつ流れ出ているところを見たり、森林の涵養実験を行ったりして、手入れされた森林が川の水を育てていることを知ることができました。

まつだちょうりつやどりきしょうがっこう (松田町立寄小学校)



中津川のゴミ拾い



生き物調べ



水源林で水生生物の観察



森林涵養実験

自然観察会(海と山)

本校では水に親しむ活動を1年次に2回実施しています。令和5年度では、第1回目を7月6日(木)に真鶴半島三ツ石海岸にて自然観察会(海)を実施しました。事前学習では、当日一緒に行動をしてくださる(NPO法人)ディスカバーブルーの方に講演をしていただきました。当日は、潮だまりで海洋生物を採取し、講師の方々から採取した生物について説明を受けながら真鶴半島の自然の特徴について学びました。事後学習では班新聞を作成し、校内に掲示しました。

第2回目は11月16日(木)に茅ヶ崎市内の自然を学習する活動として、自然観察会(山)を実施しました。事前学習では、茅ヶ崎市役所景観みどり課の担当の方から茅ヶ崎市の自然について講演をしていただきました。当日は、里山公園(柳谷)や清水谷で学習した他、講師の方々と一緒に駒寄川で、水中生物を採取し、その生物について説明していただきました。事後学習では、個人新聞を作成し、校内に掲示しました。

このように、自然に関する学習を海や川で行い、地域の自然を改めて知るとともに、自然との共存について学ぶ機会となりました。
(茅ヶ崎市立鶴が台中学校)



三ツ石海岸での生物採取の様子



駒寄川での生物採取の様子

だいすき！ゆがわらの海！

神奈川県西南端に位置する湯河原町は、「山」「海」「川」と自然豊かなすばらしい環境です。その自然環境の中で、総合的な学習の時間を活用し、湯河原の「海」について着目し、学習を展開してきました。まず、ゲストティーチャーとして(NPO法人)ディスカバーブルーの皆さんをお招きして、地元の湯河原町の吉浜海岸に行き、砂地にいる生物をいろいろと調査しました。次に真鶴町の三ツ石海岸に行き、生物や海辺の環境について「見たり」「触ったり」「感じたり」することを通して学びました。

その学習を通して、身近に存在している私たちの「海」は、とてもすばらしいものであるという事に、改めて気づくことができました。その「海」を今後も大切にしていきたいという強い気持ちになりました。

学習のまとめとして、「すばらしい海」をこれからも愛すべきものとして、みなさんにも広く伝えたいという思いからポスターを制作しました。(湯河原町立吉浜小学校)



見つけた生き物を観察している様子



海のポスターの前での集合写真

ず し かいが ん まも
ブルーフラッグの逗子海岸を守るため、ビーチクリーンをしよう！

5年生の総合的な学習の時間では、1年間を通して「SDGs」を共通テーマにしています。「課題を設定する」＝「テーマを理解し、自分の課題を見つける」ためには、まずはSDGs17の目標を知ることから始めました。

「『国連は、なぜこの目標を立てたのだろうか?』と考えながら調べてみよう。きっとそこには何か困りごとがあるはず。自分や友だちの立場に置き換えたり、日本だけではなく世界に目を向けてたりしながら、1つ1つじっくりと取り組もう。ただ、言葉を知っただけでは、内容を知らない人に説明することはできないので『知る』レベルを高めよう。身の回りには、たくさんの困りごとがある。それぞれを解決するためには、具体的に何番かな?と考えることも大事。また、いろいろな分野で活動している人や、企業についても探してみよう。」そこで、逗子市はカーボンニュートラル宣言/ブルーフラッグ取得をしているため、そのことについて取り組みました。

- 6/15 逗子海岸ブルーフラッグ出前授業：「海ごみは、どうすれば、なくすことができると思いますか？」（湘南ビジョン片山清宏さん、逗子市役所経済観光課、逗子海岸営業協同組合、FMヨコハマ「海を守ろう！～神奈川県民の意識を変革せよ～プロジェクト」）
- 6/20 逗子海岸ビーチクリーン：「スポGOMI」スポーツごみ拾い、チームワークでごみを拾い、量と質でポイントを競う競技
- 6/30 逗子海岸海開き：ブルーフラッグ掲揚式参加、前期は「SDGsを知る」、後期は「SDGsをやる」に向けて、それぞれの思い描く未来に向けて理想を実現するべく活動し、まとめている最中

ず し し り つ ず し し ょ う が っ こ う
(逗子市立逗子小学校)



ビーチクリーン

うみびら 海開き・ブルーフラッグ掲揚

さ か わ が わ す い け い ほ ぜん う ん ど う
酒匂川水系メダカの保全運動

白山中学校では2016年から酒匂川水系メダカの飼育・繁殖活動を行っています。理科室の外に繁殖用の水槽を設置し、毎年メダカの稚魚の孵化・飼育を行っています。また、職員玄関には酒匂川水系メダカとヒメダカを比較できる水槽を設置し、酒匂川水系メダカの保全の必要性について伝える活動を行っています。

また、全滅のリスク分散として、おだわら子ども若者教育支援センター（通称：は一もにい）でも飼育を行っています。

これからも継続して活動し、酒匂川水系メダカの保全に役立てていきたいです。

お だ わ ら し り つ は く さ ん ち ゅ う が っ こ う
(小田原市立白山中学校)



さ か わ が わ す い け い た ま ご と だ す
 酒匂川水系メダカの卵を取り出す

し ょ く い ん げ ん か ん す い そ う か ん り
 職員玄関のメダカ水槽の管理

問い合わせ先 神奈川県教育委員会教育局支援部子ども教育支援課

〒231-8588

横浜市中区日本大通1

電話 (045) 210-1111

(内線) 8217